

Ⅲ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

教育学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

教育学部は、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的・連続的かつ多面的・多角的な視点で見据えながら、広い視野と深い教養及び基礎的・専門的な知識・技術を修得することで、現代社会の変化に伴う様々な教育課題や幅広い地域の教育課題に応えることができる、人間性豊かで高度な実践力をもった教員の養成を目的としています。そのため、以下に示すような人を広く求めます。

- (1)現代社会の幅広い分野の諸問題に興味・関心をもつとともに教員を目指す強い意志と情熱をもち、子どもの教育と社会的活動に関わる問題解決に意欲的に取り組む人。
- (2)高等学校までの教科等の学習に基づく幅広い基礎的学力や技能を備え、専門職としての教員に必要な知識・技能の修得に積極的に取り組む人。
- (3)主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力をもち、多様な人々と協働して学ぼうとする人。

また、本学部のカリキュラムに適応するのに必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	<ul style="list-style-type: none">●グローバル人材を育成する教員に必要な英語コミュニケーションに関する科目を学ぶため、英語に関する基本的な能力と学習力が必要です。●教育実習のように、実際の教育現場における学習活動を行うため、主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力が必要です。●教育学の基礎的な知識・理論、各教科の教育内容やその学習指導方法、障害のある幼児・児童・生徒に対する教育、並びに幼児教育・小学校教育・中学校教育の各教育段階のあいだの円滑な接続や連携に関わる科目を学ぶために、高等学校までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。●教育のプロフェッショナルとして課題を発見し、それらを解決する能力を身につけるため、高等学校までに修得した知識・技能を活用して問題解決に繋げることができる思考力・判断力・表現力が必要です。

（入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み）

小中連携教育コース

文系、理系に偏らず、高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。なお、技能が重要視される教科については、基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来、小学校や中学校などの教師として活躍するためには、初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち、読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

教育支援探究コース

高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。将来、教師として活躍するためには、教職についての意欲と関心を培い、幼児教育や初等教育、特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

教育学部では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、高等学校までの学習に基づく基礎的な学力や技能に加え、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。

上記のような学生を選抜するための基本方針として、入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、本学部では、以下の各選抜方法によって、大学入学後の学修に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■小中連携教育コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関する高い意欲・関心と、その分野に関する特に優れた知識と技能
- ⑥ 教師を目指そうとする意思
- ⑦ 将来、小・中学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢
- ⑧ 将来、佐賀県下の小学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢
- ⑨ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
学力3要素との対応		「知識・技能」		「思考力等」		3要素全て	「主体性等」				
選抜方法	前期日程	共通テスト	70	○	○	○					
		個別テスト等 特色加点	○	15	15						☆
	後期日程	共通テスト	70	○	○	○					
		個別テスト等 特色加点	○	15		15					☆
	学校推薦型選抜 I (佐賀県枠)	基礎学力試験	○	40							
		小論文	○			20					
		面接 推薦書 志望理由書 調査書	◎							30	
										10	
	総合型選抜 I	適性検査	○				36				
		活動実績報告書									
		小論文	○			18					
		面接 志願理由書 調査書					28				
	総合型選抜 II (小学校教育主 免専攻)	共通テスト	91	○	○	○	○				
志望理由書						(9)		(9)			
活動実績報告書						(9)				(9)	
調査書		○				○					
総合型選抜 II (中学校教育主 免専攻)	共通テスト	93	○	○	○	○					
	志望理由書					(7)		(7)			
	活動実績報告書					(7)				(7)	
	調査書	○				○					

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよそ各配点のウエイト[%]
- ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）
- iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
- iv. ☆は、加点評価

■教育支援探究コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 特別支援教育の分野に関する学習意欲
- ⑥ 教師を目指そうとする意思
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	70	○	○	○		
		個別テスト等	○	15	15			
		特色加点						☆
	後期日程	共通テスト	70	○	○	○		
		個別テスト等	○	15		15		
		特色加点						☆
	学校推薦型選抜Ⅰ	基礎学力試験	○	25				
		小論文	○			25		
		面接					25	
		推薦書 調査書					25	
		◎						

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
- ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）
- iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
- iv. ☆は、加点評価

芸術地域デザイン学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

芸術地域デザイン学部は、創造性や高い技能をもち、新しい芸術表現を実現できる人材、また、地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し、芸術を社会に紹介したり、芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とします。各コースの教育目的、カリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等、そして入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

芸術表現コース

現代の様々な問題に主体的かつ積極的に取り組み、芸術を自ら創造・表現し、美術・工芸や有田セラムの専門的知識を修得するとともに、芸術を多面的・総合的に学ぶことで社会の中で自らの活動をマネジメントできる能力を身につけることにより、地域創生に貢献する人材を養成します。そのためカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方などを授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりません。芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。

専門科目	独自の芸術表現とそれを支える技術、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点を持ち、芸術を多面的・総合的に捉える能力を修得するために、高等学校で習得すべき基礎的学力とともに芸術についての知識、また、自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能が不可欠です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく3つの事を意識してください。1つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ、これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事が出来ます。2つ目は「理知」です。身の回りの現実にかかる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が生まれ、理知へと発展します。3つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで、より有意義な大学生活が送れるはずです。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

地域デザインコース

地域資源をデザインの手法を使ってコンテンツ化し、地域創生に貢献できる人材、キュレーター(学芸員)やアートコーディネーターとして国内・海外の文化芸術振興に寄与できる人材、また、まちづくり、地域創生等のコーディネーターやリーダーとして地域社会に貢献できる人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目(インターフェース科目を除く。)	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目(英語)を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目(インターフェース科目)	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方などを授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりません。芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。
専門科目	地域デザインの理論と実践力、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点から芸術を多面的・総合的に捉える能力について、授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校で習得すべき幅広い教科・科目の基礎的学力とともに、地域社会が抱える問題についての基礎的な知識、様々な資料や情報を読み解くための基礎的な読解力、論理的思考力、分析力、考察力に加え、自分の考えを発信する表現力、企画力、発想力等が必要です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

地域デザインコースで問われるのは、芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける4年間の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに、自分の考えを分かり易く、文章や絵、図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力、発想力、表現力が必要です。将来、国内・海外の文化芸術振興、あるいはまちづくり、地域創生等に貢献できる人材となるためには、地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通して知識教養を深めるとともに、大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■芸術表現コース

- ① 高等学校で修得すべき基礎的な教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 芸術に関する知識及び自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能
- ③ 芸術表現を学ぶために必要な分析力、考察力、表現力及び企画力を含む発想力
- ④ 芸術表現に取り組む主体性と行動力
- ⑤ 芸術表現に関する継続的な学習や自主的な芸術表現活動に向けた意欲や姿勢
- ⑥ 芸術表現の分野における優れた経験や実績

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	50					
		個別テスト等		50	○		○	
	後期日程	共通テスト	60					
		個別テスト等		40	○		○	
	学校推薦型選抜Ⅰ	実技検査		37.5	○			
		面接		(25)		○	(25)	
		ポートフォリオ 調査書 推薦書	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)
	総合型選抜Ⅰ (美術・工芸分野)	適性検査		○	25			
		面接		(37.5)		○	(37.5)	
		ポートフォリオ 志願理由書 調査書	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)
	総合型選抜Ⅰ (有田セラミック 分野)	適性検査		○	50			
		面接		(25)		○	(25)	
ポートフォリオ 志願理由書 調査書		(25)	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)	

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■地域デザインコース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力
- ⑤ 主体的なものごとに取り組むことができる積極的な行動力
- ⑥ 継続的に地域の文化芸術活動に参画する意欲と態度
- ⑦ 高等学校入学以降あるいは中学校卒業以降の主体的な実績・活動
- ⑧ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	64							
		個別テスト等			36					
		特色加点								☆
	後期日程	共通テスト	67							
		個別テスト等		11	22					
		特色加点								☆
	総合型選抜Ⅰ	適性検査	○		50					
		小論文	○		30					
		面接					20			
		志願理由書					◎			
調査書		◎				◎				
	活動実績報告書（加点式）				☆	☆		☆		

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）
iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
iv. ☆は、加点評価

経済学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

経済学部は、経済学・経営学・法学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済や社会における課題を分析し、解決できる人材を育成することを教育の目的とします。その目的を達するためのカリキュラム編成、並びにそのために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	文化・自然、現代社会と生活だけでなく、社会科学系以外の分野に関する幅広い知識を修得するために、高等学校で履修する幅広い教科や科目の知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	大学での「学び」と現代社会との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部専門科目	経済学・経営学・法学の分野を総合的に学ぶとともに、所属学科の専門分野の知識、並びに社会や経済に関する課題を発見し、その課題に向けて専門知識を活用する能力を修得するために、高等学校で履修する国語、地歴、公民、数学、英語といった幅広い教科・科目の基礎的理解だけでなく、資料や情報を読み解く力、自分の考えを論理的に展開し表現する力が不可欠です。また、専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるための外国語科目を配置しているため、英文の資料を理解するための基本的な英語の学習力が必要です。さらに、少人数による演習を1年次から行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることも重要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

経済学科

経済や社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経済学には、数学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの知識を十分に習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

経営学科

企業の経営や会計を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報に基づいて、自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経営学や会計学には、高等学校の教科書レベルの数学の知識や考え方を応用する分野も含まれます。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが望まれます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とする外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際ビジネスに対する理解を深めます。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

経済法学科

経済と社会の規範である法律について理解するためには、十分な国語力だけでなく、経済や社会、さらには政治についての知識が必要であり、そのためには、歴史や地理などの幅広い知識も重要なものとなります。また、国際性が求められる現代において、英語を中心とする外国語が重要であることは言うまでもありません。そのうえ、本学部では経済学や経営学も含めた幅広い学修が求められるため、高等学校の教科書レベルの数学の知識が必要となります。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことも、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■全学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 経済学部で学ぶために必要な基礎的な学力・学習力
- ⑤ 志望学科に関する専門分野に関心があり、主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「知識・技能」「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	88						
		個別テスト等	○	12					
		特色加点							☆
	後期日程	共通テスト	88						
		個別テスト等	○		12				
		特色加点							☆

選抜方法	学校推薦型選抜Ⅰ	小論文	○		83					
		面接					◎			
		志望理由書						◎		
		推薦書	○					◎		
		調査書	○					◎		
		基礎学力・学習力テスト				17				
		活動実績報告書（加点式）							☆	

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

iv. ☆は、加点評価

医学部

求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人
- ② 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
- ③ 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
- ④ 医学を学ぶために必要な基礎的学力・能力を備えている人
- ⑤ 生涯を通して、医学・医療について勉学する意欲のある人

医学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身につけておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学（倫理、心理、法制、福祉、生活支援など）の授業科目で構成されるため、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能が不可欠です。
基礎医学科目	医学に必要な基礎的知識と技能を学ぶ授業科目（分子生物学、免疫学、人体発生学、組織学、神経解剖学、肉眼解剖学、生化学、動物性・植物性機能生理学、薬理学、微生物学、病理学）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科、英語に関する基礎的理解と応用力が不可欠です。
機能・系統別 PBL 科目	疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成され、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが必要です。
臨床実習	医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下、医学の知識・技術並びに医師としての実践能力を修得するとともに、地域社会における医療の意義を理解し、医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として実施する実習科目であるため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢及び行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学的要素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力及びコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボランティア活動、医療関連に携わる先輩との交流などの取り組みを通じて、自身の将来像を自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
- ② 豊かな感性と表現力を身につけている人
- ③ 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
- ④ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
- ⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
- ⑥ 生涯を通して、看護学や医療について勉強する意欲のある人

看護学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	看護学に必要な基礎的知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目と、関連領域の基礎的理解（看護倫理、栄養学など）や看護の道を進むための基本となる姿勢や学習方法を学ぶ授業科目（キャリアデザイン）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科に関する基礎的理解と応用力に加え、他の教科・科目に関する幅広い知識と技能が不可欠です。
看護専門科目	看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが不可欠です。
臨地実習	看護学の知識・技術並びに看護職者としての実践能力を修得するとともに、地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し、看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施するため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢及び行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。健康には、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取り組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「佐賀県推薦」、「帰国生徒」、「社会人」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■医学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ⑤ 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献しようという意欲と態度
- ⑥ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑦ 医学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑧ 佐賀県、長崎県の医療活動に貢献したいという強い意思

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」				
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト	68	○	○					
		個別テスト等	26	○	○					
		面接				○	6			
		調査書	○	○	○		○			
	学校推薦型選抜Ⅱ	共通テスト	75	○	○					
		小論文	○		○	16				
		面接				○	9			
		調査書・推薦書	○	○	○		○			
		自己推薦書					○			
	佐賀県推薦	志願理由書 (佐賀県枠)								○
		共通テスト	75	○	○					
		小論文	○		○	16				
面接					○	9				
推薦書						○				
帰国生徒	調査書	○	○	○		○				
	学力検査	67	○	○						
	面接				○	33				
	提出書類	○	○	○		○				

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■看護学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、専門分野を理解するために必要な基本的な思考力・判断力・表現力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ④ 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献しようという意欲と態度
- ⑤ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑥ 看護学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑦ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指す意思

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	81	○				
		小論文	12		○			
		面接			○		7	
		調査書	○	○			○	
	後期日程	共通テスト	83	○				
		面接			○		17	
		調査書	○	○			○	
	学校推薦型選抜Ⅰ	小論文	○	○	64			
		面接					36	
		調査書・推薦書	○				○	
自己推薦書						○		
社会人	小論文	○	○	77				
	面接			○		23		

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

理工学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

理工学部は、幅広い教養と理工学基礎力を土台として、多面的視点をもって社会の広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を育成することを目的とします。以下に、理工学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みを示します。

理工学科

理工学科では、基礎科目から専門科目までを段階的に学んでいくことで、理工系の学問領域の幅広い基礎的知識と各学問分野での専門知識を身につけ、複眼的視点を持って広く社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。そのため専門教育は、基礎学力や理工系分野のリテラシーを修得するための学部共通科目と各専門のコースで個別に開講される専門科目に大別されます。教養教育も含めたカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	理工系人材に要求される基本的なリテラシーを修得するために、基本的な知識に加えて倫理観や自立した責任感ある行動力が求められます。また学習を通して課題解決能力や複眼的視点を修得するために、共同して学ぶ姿勢や主体的な学習態度が必要です。

学部共通専門科目	理工学部としての共通の基礎学力を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学、情報を中心とした理数系科目に関する基本的理解と、理学や工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照
卒業研究（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

理工学分野で学習する概念や法則、その応用や技術革新を理解するためには、まず理工学分野の基礎となる数学・物理・化学・情報を土台とした基礎学力、そしてこれらを専門分野において活用できる能力が求められます。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ数学・理科・情報については教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

各コース別の専門教育のカリキュラム編成と同カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

数理サイエンスコース（数理分野）

数学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	数学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、総合的な学習を通して課題解決能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。

データサイエンスコース・知能情報システムコース（情報分野）

情報分野を構成するデータサイエンスコースと知能情報システムコースでは、データサイエンス又は知能情報システムにおける専門知識・能力及び広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、この社会（地域社会・国際社会・産業界等）で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (データサイエンスコース)	データサイエンス分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学と情報の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、データサイエンス分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。

専門科目 (知能情報システムコース)	知能情報システム分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学と情報の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、情報技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、総合的な学習を通して課題解決能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

情報分野では、社会の第一線で活躍できるように、データサイエンス又は知能情報システムに関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、情報、理科などの理数系科目の基礎学力をしっかり身につけていることが必要です。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うためには、必要な基本的な思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃からデータサイエンス又は情報工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組み意欲も欠かせません。高校等での学習においては、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。また、情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けることも必要です。そして、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

化学コース（化学分野）

化学コースでは、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	基礎から応用にわたる化学の幅広い知識を体系的に身に付けていくために必要な専門科目の講義を、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、化学を通して社会に役立つ能力、及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下、総合的な学習を通して自ら仕事を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

化学は、さまざまな物質や材料の構造や機能の関係性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生化学的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理及び生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解及びレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

物理学コース（物理学分野）

物理学コースでは、物理学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	物理学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すと同時に小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。

専門科目（選択）	物理学の思考力、表現力及び数学の各分野における論理を理解するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解及び計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解及びレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

機械工学コース（機械工学分野）

機械工学コースでは、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	機械工学に関する基礎的知識から総合的知識、技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、機械工学の観点からものづくりを実際に行うための課題発見・探求・解決能力を身につけるために、演習や実験などを含む体験型学習を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下で総合的な学習を通じた実社会における諸問題の課題発見・探求・解決能力を習得するため、3年次までの教育課程について十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、今後も重要となる産業界の基となる学問です。修得するためには、高等学校で学ぶ数学、物理、化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、機械工学に関した講義の理解、レポート作成、プレゼンテーションにおいて、読解力や記述力などの国語能力、世界情勢や歴史、文化など社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに様々な分野で将来的に活躍するためには、英文の読解や作成、コミュニケーションなど基礎的な英語力は欠かせないものです。機械工学によるものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

電気電子工学コース（電気電子工学分野）

電気電子工学コースでは、電気電子工学の専門知識・能力と広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、地域社会・国際社会・産業界等で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムの適應に必要な能力や適性等、さらに入学志願者に高等学校等の学習で取り組んでいただきたい内容を下記に示します。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	電気電子工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と半導体、プログラミング、システム制御、パワーエレクトロニクスなどについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。

卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行い、専門学修の総仕上げとします。そのためには、3年次までの教育課程の内容を十分に学修できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、積極的に学習・研究活動を進めていく能力や姿勢を持っていることは必要です。
------	--

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

電気電子工学分野では、社会の第一線で活躍できるように、電気電子工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要で、教科書レベルの知識を有していることを求めます。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして、平日頃から電気電子工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。

都市基盤工学コース・建築環境デザインコース（都市工学分野）

都市工学分野を構成する都市基盤工学コースと建築環境デザインコースでは、都市工学の領域における専門的知識・技能を身に付け、都市・地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (都市基盤工学コース)	社会基盤工学に関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、安全・安心な都市・地域の環境基盤整備や都市・地域の環境基盤をより一層豊かにするための高度な知識・技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、社会基盤工学分野のプロフェッショナルとして課題発見能力及び課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (建築環境デザインコース)	建築都市デザインに関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、身の回りの居住環境・建築環境の快適性を最適に保つための知識・技能、現代社会に対応した建築・都市空間を計画・設計する能力を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、歴史や文化・伝統などに関する専門的観点から多様な価値観を理解する力、都市・地域の持続的発展に向けた建築・都市空間のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので、高等学校で履修する国語、地理、歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。さらに、建築都市デザイン分野のプロフェッショナルとして課題発見能力及び課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

都市における社会基盤・建築物等の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学分野では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象及び文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などを学習することを期待します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。

特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、志望分野への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「帰国生徒選抜」の入試区分により、入学者を選考します。また、理工学分野への女性の参加を奨励するため、「学校推薦型選抜Ⅰ」と「総合型選抜Ⅱ」の入試区分において「女子枠」(注)を設け、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

(注) 女子枠では、様々な学習活動(グループ活動、実験、演習、卒業研究等)において自分の意見を積極的に述べたり、自分が持つ能力を発揮することで、学部教育・研究活動を活性化できる女子学生を求めます。そして、専門分野に関する最先端の知識と技術を基盤に、多様な人材が活かされる場において臆ることなく自分の考えやアイデアを発信し、革新的な発想やイノベーション創出に貢献できる人材として活躍することを期待しています。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 専門科目と特に関係の深い教科・科目に関する十分な知識・技能と、これらを踏まえた高度な思考力・判断力・表現力
- ④ 志望分野で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心
- ⑥ 主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑦ 本学部で学びたいという強い意欲
- ⑧ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性
- ⑨ 従来枠にとらわれない柔軟な発想を持ち、理工学分野で多様な人材が活躍する社会の実現に向けて行動しようとする意欲

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」					
選抜方法	前期日程	共通テスト	60	○	○	○					
		個別テスト等	○	40	○	○					
		特色加点					☆	☆		☆	
	後期日程	共通テスト	60	○	○	○					
		個別テスト等	○	○	40	○					
		特色加点					☆	☆		☆	
	学校推薦型選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
	学校推薦型選抜Ⅰ (普通系 高校対象) [一般枠]	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
学校推薦型選抜Ⅰ (普通系 高校対象) [女子枠]	基礎学力・学習力テスト				25						
	小論文				25						
	面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)	
	活動実績報告書					(25)	(25)		(25)		
	推薦書	○				○	○	○	○		
	調査書	○				○	○		○		

選抜方法	総合型選抜Ⅰ (全科対象)	適性検査	○	33								
		面接	○			○	(33)	(33)	○			
		活動実績報告書					(33)	(33)		(33)		
		志望理由書					○	○	(33)	○		
		調査書	○				○	○		○		
	総合型選抜Ⅱ (全科対象) [一般枠]	共通テスト	91	○	○	○				(9)		
		志望理由書								(9)		
		活動実績報告書					(9)	(9)		(9)		
		調査書					(9)	(9)		(9)		
	総合型選抜Ⅱ (全科対象) [女子枠]	共通テスト	91	○	○	○				(9)		
		志望理由書								(9)		
		活動実績報告書					(9)	(9)		(9)		
		調査書					(9)	(9)		(9)		
		学修計画書					◎	◎		◎	◎	
	帰国生徒	小論文	○	○			(50)	(50)				
		面接		○			(50)	(50)	(50)			
提出書類		◎										

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）
iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
iv. ☆は、加点評価

農学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

農学部では、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での農学及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。農学部のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	文化・自然、現代社会と生活に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	農学分野の基礎的な知識・技術とともに、課題発見と解決能力を修得するために、高等学校で履修する理科、数学を中心とした基礎的理解と応用力に加え、資料や情報を読み解くための国語力と英語力、その他幅広い教科・科目に関する知識を有することが不可欠です。また、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	高学年次での各研究室における卒業研究では、専門的な研究環境で専門知識と先端技術を修得することになります。そのため、低学年次における教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

（入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み）

生物資源科学科

農業に関わる学問に対する興味があり、生物の機能や自然環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。講義を理解してレポート等を作成・発表するためには、様々な文章を読む・文書を作成するという国語力、社会の仕組みや地理・歴史といった一般常識も必要です。専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があることから、専門についての英語を学習する為に高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。

農学において、実験や調査活動を自主的・継続的かつグローバルに行なうことは重要です。そのためには自然科学全般に対する

知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持ち、教員、先輩、友人、留学生など周囲の人々とコミュニケーションを持つ積極性が大事です。自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ意志」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、志望コースへの志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「帰国生徒選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

生物資源科学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 志望コースで学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 本学部で学びたいという強い意欲
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

全コース共通

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	60	○	○	○		
		個別テスト等	○	20	20	○		
		特色加点					☆	☆
	後期日程	共通テスト	73	○	○	○		
		個別テスト等	○	27		○		
		特色加点					☆	☆

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
- ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
- iii. ☆は、加点評価

生物科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜方法	学校推薦型選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト			40				
		小論文			20				
		面接					20		
		活動実績報告書						(20)	
		推薦書							
	調査書	(20)							
	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	82						
		志望理由書						(18)	
		活動実績報告書							
		調査書	(18)				(18)		(18)

帰国生徒	小論文				40		
	面接					40	
	提出書類	20					

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

食資源環境科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選 抜 方 法	学校推薦型 選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				17		
		小論文				33		
		面接					33	
		活動実績報告書						(17)
		推薦書						
	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	90					
		志望理由書						(10)
		活動実績報告書					(10)	(10)
		調査書	(10)					
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)	
		面接		(40)			(40)	(40)
		提出書類	20					

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

生命機能科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選 抜 方 法	学校推薦型 選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト			8			
		小論文				33		
		面接					33	
		活動実績報告書						(25)
		推薦書						
	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	84					
		志望理由書						(16)
		活動実績報告書					(16)	(16)
		調査書	(16)					
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)	
		面接		(40)			(40)	(40)
		提出書類	20					

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

国際・地域マネジメントコース

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選 抜 方 法	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	82					
		志望理由書						(18)
		活動実績報告書					(18)	(18)
		調査書	(18)					
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)	
		面接		(40)			(40)	(40)
		提出書類	20					

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

コスメティックサイエンス学環

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

コスメティックサイエンス学環では、コスメティックサイエンス及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえる深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での化粧品及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。コスメティックサイエンス学環のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
基礎科目	理数系の基礎学力を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学、生物の基本的理解と、理学分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（理学系・農学系）	コスメティックサイエンスの知識の習得に必要な、化学と生物の基礎的な分野の理解と実践力を養います。そのため、高等学校で履修する化学及び生物の基礎的理解と応用力が不可欠です。
コア科目（基盤融合科目・実践研究科目）	有機化学と生化学を基礎として、コスメティックサイエンスの視点から物質の安全性、開発過程、製造工程などを通して体系的に理解します。それまでに学んだ他の専門科目の内容を十分に習得しておくことが必要です。また、コスメティックサイエンスのプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
学環周辺科目	コスメティックサイエンス分野と社会との接続を学んでいくためには、倫理観や責任感、未知なるものへの探究心や想像力、積極的な行動力や発信力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下、総合的な学習を通して自ら研究を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

（入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み）

コスメティックサイエンスは、化粧品の原料を主とするさまざまな物質や材料の構造や機能の関係性・安全性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このようにコスメティックサイエンスを専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の生化学的性質を理解するためには生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、生物の基礎学力は、コスメティックサイエンスを専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解及びレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

上記のことに加え、学環の特徴を生かし、様々な学問分野の専門知識を身につけ、複眼的視点から本学環の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」をもった学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学環で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学環への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「総合型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学, 理科に関する知識・技能と, これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ コスメティックサイエンスの専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ④ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して, 本学環の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	
学力3要素との対応		「知能・技能」「思考力等」		「主体性等」		
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト	74	○		
		個別テスト等	○	26		
		特色加点			☆	☆
	後期日程	共通テスト	70	○		
		個別テスト等	○	30		
		特色加点			☆	☆
	総合型選抜Ⅱ	共通テスト	95	○		
		志望理由書				
		活動実績報告書			(5)	(5)
		調査書	○			

i. 数値は, 各入試区分で評価する重み (総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%])

ii. ○は, 間接的に評価したり, 内容を確認するもの

iii. ☆は, 加点評価